平成２８年度　政務活動費　先進都市調査報告書

会派名	市民ネット・むろらん
議員名	水江一弘・児玉智明・佐藤潤・小田中稔・髙橋直美・立野浩靖
調査実施年月日	平成29年1月16日（月）
調査先　自治体名等	北海道　札幌市
調査項目	「札幌市えほん図書館」と「札幌市青少年科学館」
調査目的	展示内容と施設の運営方法等
報告内容 実施したこと	１　視察先（市町村）の概要 人口：1,945,832　人（H28. 6. 1 現在）　行政面積：　1121,26　㎢ ２　視察内容 本市で現在計画中の環境科学館・図書館、及び建築が決定している生涯学習センター内へ設置される予定の児童図書を中心とした分室について、参考となる事例等の情報収集。 青少年科学館については現地視察のみで、担当者から直接聞き取りは行っていない。館内は「見て、触れて、考える」をテーマに、様々に工夫された展示が目を引き、当日も多くの親子が楽しんでいる様子がうかがえた。特に印象に残った展示は、顕微鏡で微生物やプランクトンなどを観察できるブースで、担当者からの説明も分かりやすく、子どもの好奇心をくすぐるものとなっている。また、エネルギー関連の展示も充実しており、本市でも力を入れている燃料電池のコーナーでは、水を電気分解し水素と酸素を発生させ、その水素と酸素を反応させて発電する仕組みが実験で確認できるよう工夫されていた。プラネタリウムについては、時間が合わず断念したが、使用機器や投影方法等も気になるところである。その他、実演展示にも力を入れており、夫々のテーマに合致した取り組みが行われている。 えほん図書館は第３次札幌市図書館ビジョンの「子どもの読書活動推進のための方策」で基本方針として定められた、「子どもの発達段階に応じた読書に親しむ機会の充実」で取り組み項目とされた、「乳幼児・保護者向け読書活動」を図書館が担うべきとされたことから、昨年１１月に、白石区複合庁舎の開設に合わせ同時に整備されている。開館当初は１５，０００冊の蔵書であったが、現在は２０，０００冊程度まで増加している。当然ではあるが、蔵書はすべて絵本で、来館者数も、２カ月間で６万人を超え、１日、２，０００名を超えることもあったとのこと。今は落ち着いてきてはいるものの、土日は１，０００名程度の利用者がある状況となっている。また札幌の図書館では初となるICタグを採用し、貸し出しや返却が自動化され、業務の効率化にも貢献している。人員体制は正職員４名（内２名が係長職）、嘱託職員６名、臨時職員１名の１１名で、他に読み聞かせなどのボランティアも活動している。開館に要した費用は、概算で約４億４千万円、その内図書購入経費が２，５００万円、ICタグ採用による札幌市の図書館システムの変更・改修経費が４，１００万円、その他が施設経費となっている。ただし、施設経費については設置場所が複合庁舎なので、面積に応じた按分換算の数値であることは注意を要する。

感想（まとめ） 本市へ生かせること等	本市で開設される環境科学館では、本市の基幹産業における環境技術の高さが認識できる展示が必要だと感じた。その上で体験型の展示や参加型のイベントも引き続き継続し、プラネタリウムについても存続させる必要がある。また、実際に目で見て、手で触れて心で感じる展示の必要性も検討に値する。 えほん図書館は子育て支援の面からも面白い取り組みで、中島町の生涯学習センターへの導入を検討することも排除するべきではないと考える。子どもが遊べる施設を併設する中で、絵本に特化した図書館として設置できれば、新設予定の図書館本館の児童図書との住み分けも可能である。しかし、本市の状況を鑑みると、必ずしも絵本に特化することが得策とは言えないことも事実で、今後も検討を続ける必要がある。